

鶴岡青年会議所特別企画

理事長 × 副理事長

対 Special Talk Session 談

鶴岡の未来と鶴岡JCの関わり方について

明るい豊かな社会を築き上げるべく、青年としての英知と勇気と情熱を持って活動を続ける我々鶴岡青年会議所は、今年で43年目を迎えることとなりました。これまでもさまざまな運動を通じて、少しでも地域の発展に貢献できるよう、互いに励ましあいながら汗をながし、同時に自分たち自身を磨いてまいりました。今年の組織は理事長の佐藤智信君を中心に政策広報室、JC交流室、地域育成室、日本一花火室と事務局から成り立っており、それぞれが全体のスローガンである「和～想い溢れるJayceeの力で、地域に和を創造しよう～」のもとに事業を計画、実行していきます。今回の特集では今年度の鶴岡青年会議所理事長と、副理事長との対談を通して、今年の鶴岡JCがどの方向に向かっていこうとしているのかを伝えたいと思います。

2009年度 (社)鶴岡青年会議所 理事長

佐藤 智信 Toshinobu Sato



対談① JC交流室担当副理事長

工藤 規行 Noriyuki Kudo

理事長 工藤副理事長、今年一年よろしくお祈りします。

工藤 こちらこそよろしくお祈りします。

理事長 2007年に青少年委員会で一緒に活動して以来、久しぶりに身近で仕事させていただきまます。

工藤 その前にも理事長が入会した年に一緒に仕事しましたよね？フォーラム担当で。

理事長 あの時、本当に入っていただけみたいなどころありましたね。さて、本題ですが、このJC交流室は、組織の中でもムードメーカー的役割を担っていただきたく、ここを任せる副理事長は工藤さんを置いてほかにいないと思って任せた経緯があります。JC内の事業はもちろん、7月の会員大会は今まで一番よい大会だったといってもらえることを期待しています。

工藤 今年の鶴岡JCは、今まで以上に外部との交流を重ねていきたいです。鶴岡JCは他のLOMと比べその点が劣っていると思います。



1月例会
新年賀詞交換会での
会員大会PR活動

理事長 そうですね。工藤副理事長が今まで培ってきた交流の輪と経験を生かして、鶴岡JCらしさの発信はもちろん、LOMをもっと大きく広げる役割こそ大事だと思っています。

工藤 人を磨くものは人しかいないでしょう。人と人との出会いを通して、一人一人が自分自身を磨き上げる手助けをしていきたいと思っています。ただ、方向性だけは間違えないよう、丁寧に指導していくつもりです。

理事長 あと、参加して楽しいと思えるメンバーを増やしてもらいたいとも思っています。あまり出席率が高くないメンバーもこの室の事業には、ぜひ参加していただけるよう期待しております。

工藤 そのためには、僕が感じている、メンバー一人一人の温度差はもちろん、鶴岡の地域間での温度差も変えていかなければならない。鶴岡のいいところをうまく表現できていないのではないのでしょうか。もっと鶴岡の持っているいいところを地域の方たちにも知ってもらいたい、また、そんな活動している鶴岡JCのことを知ってもらいたいと思います。そして、それをメンバーがもっと自覚していければと思っています。



対談② 地域育成室担当副理事長

小池 昌和

Masakazu Koike

理事長 小池副理事長、今年一年よろしくお願いします。

小池 こちらこそよろしくお願いします。

理事長 さて、小池副理事長とは小学校以来の付き合いなのに、今までJCでは一緒に事業や仕事をする機会はありませんでした。

小池 そうですね。一緒に活動した7年間一度も一緒になっていないですね。今回初めて身近でお手伝いさせていただきます。

理事長 まあ、初ではありますが、お互い知らない間柄ではないですし、今回は地域育成室担当副理事長という立場で私を支えていただきます。小池副理事長には昨年花火大会の総括を担当していただいた経験を生かし、まずは担当の若い委員長のフォローをお願い致します。

小池 担当する両委員長は経験も豊富ではありませんので、私がJC三信条を元に事業活動を通じて楽しむ事を学んでいただきたいと思いますと考えております。ただし、ただ楽しむだけの仲良しグループにはならないようにまとめていくことが肝心だと考えております。

理事長 よろしくお願いします。また、事業のほうでは地域に一番近いところで、子供たちにも接する機会がありますので、ぜひJCらしさの見える事業の運営を進めていただきたいと思います。

小池 理事長の想いを委員会メンバー一人一人が理解して、最大限の効果を発揮できるようがんばっていきます。

理事長 後は、それらをやりっぱなしで終わるのではなく、事業を終えた後にも効果が残るように、また、来年にもつながっていければ大成功といえるでしょう。そうなるよう、ぜひがんばってください。

小池 子供たちが夢や希望を持てる街が僕の目指す鶴岡の街の未来像です。鶴岡の町を誇りに思えるようがんばっていきます。



対談③ 政策広報室担当副理事長

板垣 一紀

Kazunori Itagaki

理事長 板垣副理事長、今年一年よろしくお願いします。

板垣 こちらこそよろしくお願いします。

理事長 今までJCの中よりも他団体と一緒に仕事することが多かったですが、今年はJCのほうでよろしくお願いします。

板垣 そうですね。子供の頃からの付き合いでもありますし、お互いががんばりましょう。

理事長 今回は政策広報室担当副理事長という立場で私を支えていただくわけですが、板垣副理事長には委員長のフォローはもちろん、事業におい

ても期待しております。まずは広報委員会を通じて地域に伝える役割を楽しんで行えるよう支えていただきたいと思います。

板垣 そちらに関しましては、公益社団法人を目指すうえで想いを伝えることは重要と考えております。JCが行っている市民変革運動をしっかりと伝えていけるように進めて生きたいと思っております。

理事長 よろしくお祈りします。また、政策委員会に関しては、委員長が東北地区で重ねてきた経験をLOMでも存分に発揮できるようにしていただければと思います。

板垣 そうですね。委員長は防災に関する事業に携わっていましたので、その培ってきた経験を生かせるようにフォローしたいと思います。また、ローカルマニフェストの推進にも力を入れていきたいです。

理事長 後は、それらを自分たちの自己満足で終わらないよう、外部への発信力をホームページなどを利用して進めていってください。

板垣 ここに住む皆さんが、積極的に街作りに参加してくれる地域が僕の描くこの街の未来像です。地域の皆さんにこの町を好きになってもらえるようがんばります。



対談④ 日本一花火担当副理事長

佐藤 正廣

Masahiro Sato

理事長 佐藤副理事長、今年一年よろしくお願いします。

佐藤 こちらこそよろしくお願いします。

理事長 今までJC内で一緒に活動はなかったのですが、過去の事業、室の運営を見てぜひ今回の花火担当副理事長をお願いした経緯です。

佐藤 ありがとうございます。期待に沿えるようがんばります。

理事長 今までの経験を生かして花火大会を進めていただきたいと思います。赤川花火実行委員会という複雑かつ、若いメンバーの多い組織をまとめ、景気情勢に負けない大会にさせていただきたいと期待しています。また、過去を踏まえた大会の検証も大きな仕事として今後につなげていけるようお願いいたします。

佐藤 今まで携わっていただいたOBの方たちの想い、現役メンバーの想い、外部で携わってくれている方たちの想いをひとつに重ね、和としていく事が感動日本一への道であると考えております。また、大会の検証を通じて、今後さらに感動日本一に発展していける大会にしていければと思っています。そして、その作業を通じて委員会メンバー一人一人が成長できればいいですね。

理事長 まったくそのとおりですね。自分の想いを形にしてくれると期待しております。

佐藤 理事長の思いを具現化することが室の役割であると考えています。そのために出来る限り実務をこなしていきたいと思っております。

理事長 僕も8月9日を楽しみにしています。ありがとうございます。

佐藤 周辺地域を含めた広域的連携の拠点となる地域づくりの中心となることが、僕の考える未来の鶴岡像です。情報、経済、文化などの中心という意味での城下町鶴岡になれるようがんばりたいと思っております。



スローガン

和

2009年度 (社)鶴岡青年会議所

理事長 佐藤 智信

2009年度 社団法人鶴岡青年会議所
スローガン・基本理念・基本方針・事業計画

～ 思い溢れるJayceeの力で、地域に和を創造しよう ～

多くの先輩諸兄がJayceeの志を引継ぎ、42年間の社団法人鶴岡青年会議所の歴史を築いて来られました。1967年山形青年会議所のスポンサーにより設立されてから奉仕・修練・友情の三信条のもと、多くの喜びと困難を積み重ねて来られた想いに、強く強く責任を感じます。そして43年目の次の一步を踏み出せる事を、大きな喜びとして感じております。

この大きな喜びを鶴岡青年会議所の多くのメンバーと共に、明るい社会の創造の確かな一歩として 2009年度は「和」をもって進んでまいります。その為には「和の精神」が大切だと私は考えます。そして私の考える和の精神には三つの意味があります。

第一の和、古き良き日本人が持っていたモラルや、「OMOIYARI」「もったいない」のような和の心です。青少年の教育や地域の交流の現状、また食品偽装などの問題は拝金主義の負の部分の最たるものではないでしょうか。資本第一主義では人の心は荒んでしまうのです。

第二の和、足し算の答えは「和」です。地方経済は主要都市との格差が年々広がっています。一部少数の企業を除いては今後も更に厳しい状況に追い込まれて行くのではないのでしょうか、今こそ異業種・同業種に係わらずコラボレーションし、新たな事業展開を創造しなければなりません。そして個々の想いを足して一つの和とし大きな力として発信しなければなりません。

第三の和、「平和、和やか」といった心のゆとりです。数年前にゆとり教育という方策が取られた事がありました。そうではなく、大変な時こそ落ち着いて、緊迫した時ほど平常心でといった心のゆとりが必要と考えます。

2009年鶴岡青年会議所は「和」をテーマに取り組み、メンバー一人ひとりが地域やそれぞれに係わる人々にその心を紡いでもらいたいと考えます。

基本理念

思索生知、古き良き日本の「こころ」と、将来を想う「想像力」で、より良い地域を考え、素晴らしい仲間たちと共に切磋琢磨しながら活動し、明るい未来の創造の為に、誇りある青年会議所運動を行います。

基本方針

- 1 地域愛を醸成する事の出来る事業の創造
- 2 人材から人財へ、無くしてはならない人財の育成
- 3 地域の食産業を考え、将来に意義の在る事業の展開
- 4 楽しくスマートな LOM の運営
- 5 諸大会への積極的参加
- 6 「OMOIYARI」の精神を持って全ての方へ接する運動の展開
- 7 柔和をもって和合と成す「こころ」の醸成

事業計画

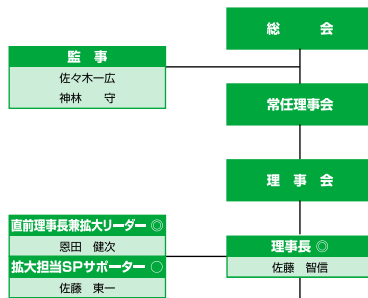
- 1 将来を考え更なる発展の為の全員参加型の会員拡大活動
- 2 ローカルmanifestoの普及を推進する事業の実施
- 3 JC を多くの方にとって頂く為の対外的な広報活動
- 4 わんぱく相撲鶴岡・田川地区大会及び山形ブロック大会の開催
- 5 地域産物を活かした食事業の開催
- 6 地域の今後を考える事業の実施
- 7 LOM 内外における積極的な交流活動
- 8 2009年度山形ブロック大会 鶴岡大会の主管
- 9 計画した事業の効果と改善点を考え次代へ繋ぐ事業の実施
- 10 第十九回赤川花火大会の運営



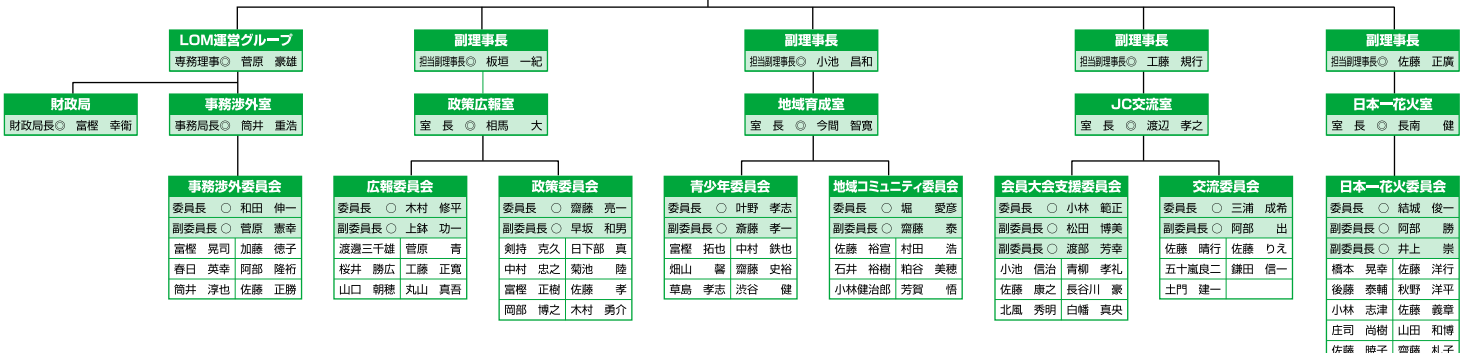
2009年度 (社)鶴岡青年会議所 組織図

国際青年会議所
 (社)日本青年会議所
 (社)日本青年会議所 東北地区協議会
 (社)日本青年会議所 東北地区 山形ブロック協議会

- ◎ 常任理事 13名
- ◎ 理事 19名



2009年度 鶴岡青年会議所 出向者				2009年度 鶴岡青年会議所 出向者			
氏名	出向先	委員会名	役職	氏名	出向先	委員会名	役職
◎ 恩田 健次	日本青年会議所	JCガバナンス確立会議	副議長	◎ 渡部 芳幸	山形ブロック協議会	アカデミー委員会	委員
◎ 富樫 幸衛	日本青年会議所	JCガバナンス確立会議	幹事	◎ 中村 鉄也	山形ブロック協議会	アカデミー委員会	委員
◎ 草島 孝志	日本青年会議所	「真日本建国」創造会議	委員	◎ 山田 和博	山形ブロック協議会	アカデミー委員会	委員
◎ 佐々木一広	日本青年会議所	JCガバナンス確立会議	委員	◎ 青柳 孝礼	山形ブロック協議会	アカデミー委員会	委員
◎ 中村 忠之	日本青年会議所	JCガバナンス確立会議	委員	◎ 佐藤 正勝	山形ブロック協議会	アカデミー委員会	委員
◎ 相馬 大	日本青年会議所	JCガバナンス確立会議	委員	◎ 小池 昌和	山形ブロック協議会	ブロック強化創造委員会	委員
◎ 渡辺 孝之	東北地区協議会	東北ゼミナール委員会	委員	◎ 五十嵐 良二	山形ブロック協議会	組織連携推進委員会	委員
◎ 板垣 一紀	山形ブロック協議会		副会長	◎ 佐藤 康之	山形ブロック協議会	会員大会運営委員会	委員
◎ 佐藤 洋行	山形ブロック協議会	アカデミー委員会	副委員長	◎ 齋藤 史裕	山形ブロック協議会	会員大会運営委員会	委員
◎ 阿部 勝	山形ブロック協議会	アカデミー委員会	幹事	◎ 長谷川 豪	山形ブロック協議会	会員大会運営委員会	委員
◎ 松田 博美	山形ブロック協議会	会員大会運営委員会	副委員長	◎ 橋本 晃幸	山形ブロック協議会	総務委員会	委員
◎ 井上 崇	山形ブロック協議会	やまがた協議会実践委員会	委員				



委員会紹介

事務渉外委員会

和田伸一

当委員会では総会や例会セレモニーの運営、理事会等会議の設営及び渉外窓口などの業務を主に、LOM 運営に関わる全般的な役割を担います。

9月例会にはアニュアルレポートを開催。また7月には地域への貢献・地域愛の醸成の一助とすべく内川清掃に参加いたします。

皆様のご協力をお願い申し上げます。

広報委員会

木村修平

JC として、どんな想いを持ってこのまちの市民意識変革運動に携わっていくのか、どういう効果を願って事業に携わってきたのかなど、深く地域の方たちに浸透させるようがんばります。

広報誌、ホームページは公益社団法人の本質を目指す鶴岡 JC にとって、重要な意味を持っていると認識しております。また4月例会では、「伝える」ということをテーマに、地域の方たちのためになる事業を計画中です。地域の方々の期待にこたえる JC をアピールしていきます。

政策委員会

齋藤亮一

私達の委員会では公益的な公開例会を行うことで、市民の政治・行政に対する認知・関心度を高めると共に、メンバー一人ひとりの人間力向上を図ります。委員会メンバー全員が話し合い、意見を持ち寄り、力を合わせ学んだことを、公開例会の場に落とし込み、参加者一人ひとりのモチベーションのアップを期待し、その効果が我が鶴岡の未来を動かしていく原動力に繋げていきたいと考えています。「鶴岡らしさとは何か？」を再認識する機会を設け、地域の人々とともに考え行動します。未来に思いを繋げる可能性を秘めた事業なので、広く発信・公開し伝えていくことが第一歩です。防災・危機管理において JC と地域の「和」を築き、地域の人に災害に対する常日頃からの意識の向上を図ります。現状把握・備蓄・自治体における防災対策など、これからの街づくりに不可欠な要素を検証し、小さな一歩の踏み出しが大きな波に変わるきっかけを創出します。

会員大会支援委員会

小林範正

2009年度山形ブロック協議会会員大会が、15年ぶりにここ鶴岡で開催されます。当委員会はこの大会をサポートします。15年前に先輩たちが「敬天愛人」のテーマの下に創造した鶴岡を継承し、未来の鶴岡を創り上げていく過程へ、何らかの「気付き」や「きっかけ」市民意識変革を与える大会を運営することを役割とします。

地域コミュニティ委員会

掘愛彦

「コミュニティの活性化を目指して、地域の輪を広げよう」というテーマのもと、我々地域コミュニティ委員会は、1月、10月例会を担当いたします。LOMメンバーが積極的に対外との交流を行うため、JC活動を他団体から周知して頂けるよう、また鶴岡地域の活性化を図るべく活動してまいります。

交流委員会

三浦成希

交流委員会では、委員会テーマ「おもてなしの精神で、心と心の和を繋ごう～楽しみ、そして心に刻まれる交流～」を掲げ、鶴岡青年会議所内での団結、各青年会議所との連携などを深める重要な役割を果たして行きたいと思っております。2月例会では、庄内の3つの青年会議所の合同事業として、山形ブロック協議会会長公式訪問を開催し、方向性を共通の認識とすることで個々のメンバーの意識向上につながる場が必要であると考えます。また、地域をリードする青年経済人として、明るい豊かな社会を築く為には、3つの青年会議所の連携活動は今後も重要性を増して行くと思われま。12月例会では鶴岡メンバーの卒業式を開催し、青年会議所活動での様々な栄光を称え、卒業後の更なる発展を願いたいと思っております。

日本一花火委員会

結城俊一

日本一市民の喜び、地域の誇り、安心快適な笑顔あふれる花火大会を目指して、今年も赤川花火大会を大成功へと導きたいと思っております。来年20周年を迎える赤川花火大会ですが、来年以降も成長を続けることが出来るよう、今回の検証をしっかりと行い、委員会メンバーとともに運営していきたいと思っております。

青少年委員会

叶野孝志

全国的な少子化や食の安全に関するさまざまな問題が取り上げられる近年、青年会議所では何が出来るのかという点を委員会メンバーとともに考えながら活動できればと思っております。

今年にはわんぱく相撲山形ブロック大会が鶴岡にて開催されます。相撲は日本の国技ですので心技体を鍛えるとともに、新たな友情を生み出していただきたいと思います。また11月には食育に関する例会がございます。公開例会ということなのでたくさんの地域の方々より参加していただきたいと思います。

どちらも地域の方々や子供たちとのコミュニケーションの場となりますので委員会メンバー一致団結して活動していきたいと思っております。

1月例会 事業説明並びに新年賀詞交換会

7月例会 会員大会鶴岡大会

2月例会 3LOM 合同例会

8月例会 第十九回 赤川花火大会

3月例会 地域防災関連事業

9月例会 アニュアルレポートミーティング

4月例会 ビジネスセミナー

10月例会 産業推進事業

5月例会 わんぱく相撲 鶴岡田川地区
(青少年育成事業)

11月例会 地域食育事業

6月例会 会員大会啓発推進事業

12月例会 卒業式

過去の事業例



1月例会 新年賀詞交換会



去年の環境イベント



わんぱく相撲大会



「庄内の食」活き活きプロジェクト



毎年恒例の赤川花火大会



健全な青少年を育成するスポーツ教室

12月例会報告 December Report



卒業生の皆様、長い間本当にお疲れ様でした

去る12月13日(土)、ホテル海麓園2階日本海の間にて、12月例会「卒業式」が行われました。

今年は卒業メンバーに今までの活動の苦労を癒して頂き、時間を忘れてゆっくりと楽しんで頂きたいという思いから温泉地での開催となりました。

2008年は、残念ながら卒業の年に亡くなってしまった若生順君を入れて合計7名の卒業メンバーがこの日を迎えました。

参加者は浴衣でリラックスしながら、7名のこれまでの功績を映像で振り返ったり、OB・現役メンバーからのお祝いメッ

セージの上映を楽しみました。

最後に当日ご出席頂いた現役メンバーの皆様、また連日遅くまで作業してくれた委員会メンバー、本当にありがとうございました。

そして卒業メンバーの皆様、今まで本当にお疲れ様でした。卒業メンバーの皆様がJC活動を通して学んだ事を今後の地域発展のために活かし、ますますご活躍される事をお祈りいたします。

会員ネットワーク委員会 ●委員長
松田博美

2009年度 (社)鶴岡青年会議所 新入会員 募集中!

仕事が忙しいあなたにこそ青年会議所(JC)入会をお勧めします!
なぜなら青年会議所は、あなたと同じ働き盛りでハードスケジュールの青年経済人で構成されているからです。

Q. 入会すると どんなメリットがあるの?

A. 自分自身の成長という得難いメリットがあります。

—— 経営者、ビジネスマンとして

JC活動を通じて学んだ指導力は、ビジネスの世界でも素晴らしい効果を発揮するでしょうし、家庭や地域においても大いに役立つことでしょう。様々な立場、職種の方々と話をすることによって、自分を別の角度から見ることができ、その中で貴重なヒントを得たり、将来の方向を見つけ出したりすることも可能です。

—— 友達づくり、人脈づくりとして

鶴岡JCメンバーは勿論のこと、日本全国や世界各地に多くの仲間を作ることができます。その中で心を許し、腹を割って話し合える親友を得ることも出来ます。

—— 自己鍛錬の場として

大勢の前で話や発表をする場が多いので、自然に話し方がうまくなり表現力も養われます。また、効率的な会議の進め方も修得できます。

その他、メリットは無限にあります。それらはあなたの参加意欲と情熱によって産み出されてきます。

Q. 活動の目的は?

A. 「明るく豊かなまちづくり」に貢献することです。その結果、メンバーが一致団結し、我々のまちが良くなっていくと共に、JCの三信条である、「奉仕・修練・友情」の精神が養われていきます。

Q. 活動の内容は?

A. 赤川花火大会や各種市民シンポジウム、わんぱく相撲大会など、様々なまちづくり活動を行なっています。詳しくはホームページをご覧ください。

Q. 女性メンバーもいるのですか?

A. JC活動に性別は関係ありません。男女両方の観点があつてこそ地域社会への奉仕活動も活きたものになります。是非とも女性の方も入会をお勧めします。

Q. メンバーはどのような職業の方が多いのですか?

A. 企業経営者や自営業者が大半ですが、会社員、公務員の方も少なくありません。企業から研修の一環として入会される方もおります。



新入会員募集要項

◎対象者 鶴岡市、三川町に居住、または勤務している20歳から40歳の青年会議所運動の精神に賛同し、「明るい豊かな社会づくり」を志す青年

◎連絡先 TEL.0235-24-0377 FAX.0235-22-5090

※その他、応募条件、予備登録手続、入会希望者説明会等の詳細についてはホームページをご覧ください。



Regular meeting guide

2月例会 ●開催日時 2月17日(火) 響ホール

2月例会では、3LOM合同例会「山形ブロック協議会会長公式訪問」が行われます。内容は、山形ブロック協議会会長の高田誠君を迎え、日本青年会議所 基本方針プレゼンテーション・山形ブロック協議会事業説明・質疑応答です。今年度の青年会議所活動への方向性を確認する為にも多くのメンバーに参加して頂きたいと思っております。さらに、例会終了後には、3LOM合同懇親会を開催します。アトラクションも計画しておりますので、他LOMメンバーとの交流を助け、当LOMメンバーとの団結も深める会になればと思っています。委員会メンバー一丸となって尽力しますので、多数の御出席、心よりお待ちしております。

3月例会 ●開催日時 3月8日(日) 出羽庄内国際村

私達が住むこの日本は地震大国です。そのために私達は万一のときの備えとして日頃から防災を心掛けていくことが重要です。しかし、我々が住むこの土地は幸いな事に大きな地震災害も無く今日に至ります。本当に日常的な防災が必要であるのかを、鶴岡市の現状を把握することによって理解し、相互の助け合いがいかに大切かを知る必要があります。また、日頃から私達JCメンバーが地域のリーダーとして率先して災害について学び、地域の人々と連携の輪を築いていくことがこれからの使命であり、地域に「災害に強い街づくり」を提唱していくことが我々の課題であります。

そのことを踏まえ「心がけよう小さな防災 そのときあなたは何かできるのか!」とテーマを掲げ、イベントを混ぜた一般市民参加型スタイルの公開例会を委員会メンバー一丸となって企画してまいります。ぜひ皆様に会場に足を運んでいただき、防災に対する心がけを持ち帰って頂きたいと考えております。宜しくお願い致します。